

第6回奈良 ESD 連続セミナー

- ◇ 開催日時 平成 28 年 9 月 21 日（水）19 時～22 時
- ◇ 会場 次世代教員養成センター2 号館
- ◇ 参加者 大西・池見（飛鳥小）、山方・三木（都跡小）、中村・今井（済美南小）、西口（平城西小）、石田（済美小）、島（郡山西小）、中澤哲（平群北小）、新宮（平城小）
北村・吉川・中澤（奈良教育大学・教員）
仲・後藤田・堀口（奈良教育大学・学生） 計 17 名

本日の研修テーマ

「教育課程企画特別部会における論点整理」を通して次期学習指導要領への理解を深める

2. 新しい学習指導要領等を目指す姿（担当：島先生）

（1）新しい学習指導要領等のありかた

資質能力：社会に開かれた教育課程

（社会の変化に向き合い、適切に対応していくための資質能力）

→ 社会を変革していく力の育成は必要ないのか？

「何ができるようになるのか」：資質能力の整理

「何を学ぶのか」：指導内容を検討

「どのように学ぶのか」：具体的な学びの姿（指導方法というよりは）

・ **深い学習**のプロセスが重要：対話を通じて

・ 知識の構造化：個別の知識と汎用的知識

個別の文脈的知識（個別の事実に関する知識）を組み合わせる汎用的な知識とすること

個別の知識の習得段階で終わるのではなく、関連付けたり、総合したり

→ 中心概念（汎用的知識）を育成する

（2）資質・能力

①基本的な考え方

求められる人間像の例

ア・社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できる人間であること

イ・多様な人々と協働していくことができる人間であること

ウ・自ら問いを立てて、計画を実行し、価値を創造し、新たな問題の発見・解決につなげていくことができる人間であること

②資質・能力との関連を考える

	個別の知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
ア	伝統的知識・深い知識	何が重要であるかを判断	理想を実現しようとする高い志・意欲
イ	対話を通じた知識の組み合わせ・拡張	自分の考えを根拠と共に明確に説明する	多様な人々と協働できる
ウ	活用できる知識・技能の習得	協働的問題解決 必要な情報の選択 相手や状況に応じた表現	メタ認知 リーダーシップ・チームワーク

②特にこれからの時代に求められる資質・能力

	個別の知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
変化	固有の組織のこれまでのあり方を前提としない シンキングスキル ICTに関する科学的素養	様々な情報・出来事に対する判断 これからの社会に対するビジョンを描く クリティカル・シンキング データ分析能力	協働できる 自己の感情や行動を統制する能力 よりよい生活や人間関係を形成する態度
グローバル	言語や文化に対する理解 日本の古典に関する知識 思想・思考の多様性の理解 持続可能な社会づくりにつながる地理的な素養	外国語による表現力 異文化理解・協働 自国と世界の歴史の展開に関する思考	日本人としての美德・よき芸術的感性
オリ・パラリンピック	多様な国や地域の文化理解	多様性の尊重	他者とのかかわり方 国際平和への寄与 ルールを守り競い合っていく力 ボランティア活動 他者への共感や思いやり

※変化の中に生きる社会的存在に関連して、詳細が述べられておらず、分類できなかったもの

平和で民主的な国家及び社会の形成者として求められる力

生産や消費などの経済的主体等として求められる力

安全な生活や社会づくりに必要な資質・能力

情報活用能力

③発達段階や成長過程のつながり

- ・系統的な学びの重要性
- ・ゴールを明確にした教育
(6年生・9年生・12年生)
- ・インクルーシブ教育



(3) 学習指導要領等の構造化

①構造化の在り方

教育課程の構造化（ゴールを見据え、各教科の知識の内容だけでなく、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかを視野に）

教育課程の全体構造と各教科等を往還的に整理していく

②アクティブ・ラーニングの意義

目的は深い学習：アクティブ・ラーニングはそのためのもの。形式化しないように

③指導方法の不断の見直し

資質能力3つの柱に即しての見直し

3. 学習評価の在り方について（担当：中澤哲先生）

- ・資質能力の3つの柱に沿って3観点に整理
- ・感性や思いやり等は評価の対象外
- ・主体的な学びの過程の実現に向かっているかどうかを評価する
- ・評価できるような場面の設定
- ・パフォーマンス評価等多面的評価の必要性
- ・子ども自身が把握できるような評価：前の学びからより深い学びに向かっていることを自己評価
- ・子どもが主体的に学習に取り組む場面の可視化：アクティブ・ラーニング
- ・深い学びへの傾向を評価するべき
- ・目標に準拠した指導における形成的評価が重要
- ・ルーブリック評価について（山方先生）

想定して作成する予備的ルーブリックと子どもの実態に即したルーブリックの見直しによるルーブリック

パフォーマンス評価＝パフォーマンス課題＋ルーブリック

- ・関心・意欲・態度の評価：深い学びへの傾向を評価する。きちんと説明できること。
- ・教員が深い学びの具体をある程度持つておくことが重要

次回は10月20日（木）19時～。研修内容は「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）のポイント」とESDの学習指導案の様式についてです。

